

伊勢小俣町商工会 平成 29 年度 経営発達支援計画事業  
消費者買物調査 アンケート集計結果報告

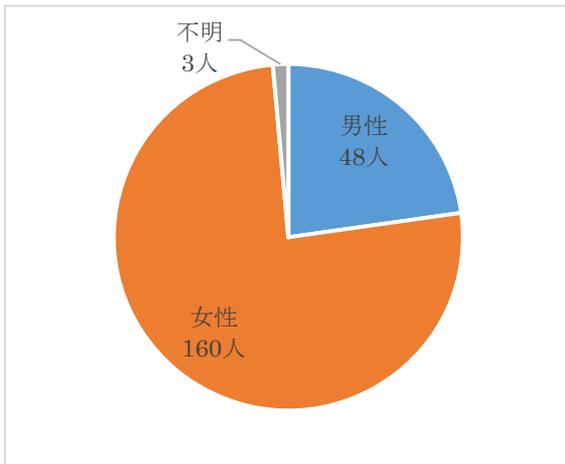
アンケート時期：平成 29 年 11 月 5 日（日）

アンケート方法：参宮市会場にて来場者を対象に行う

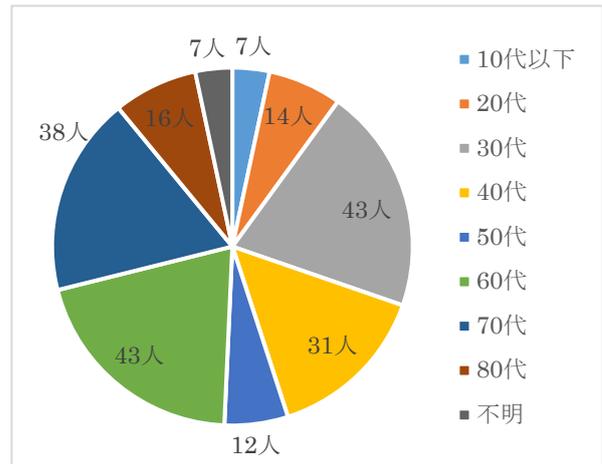
回答総数：211 件

I. 回答者属性

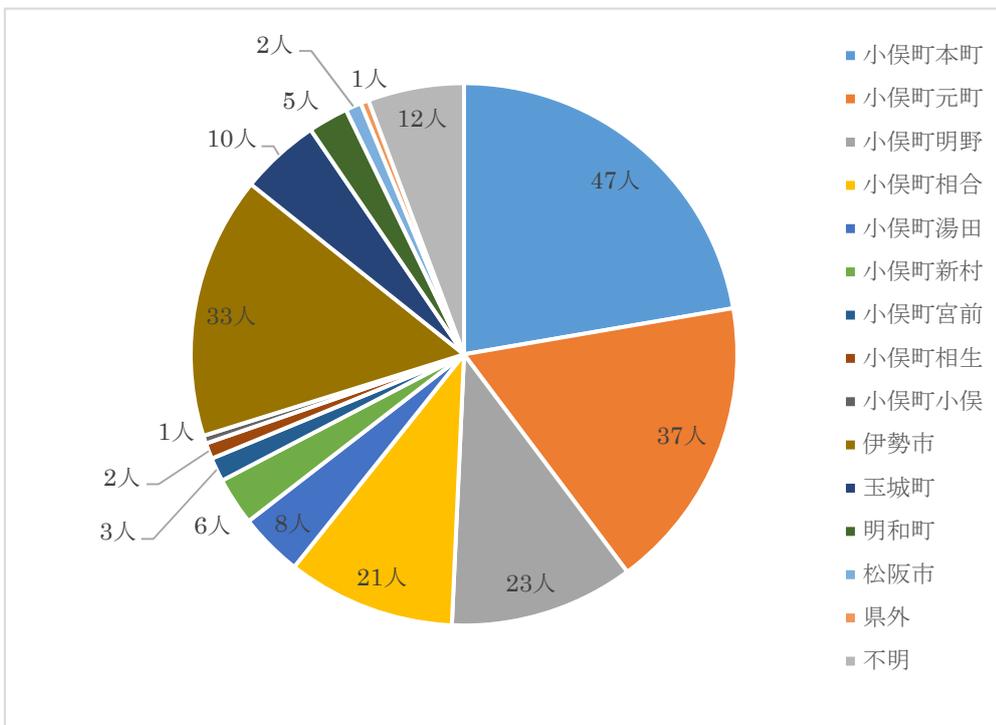
●性別



●年齢



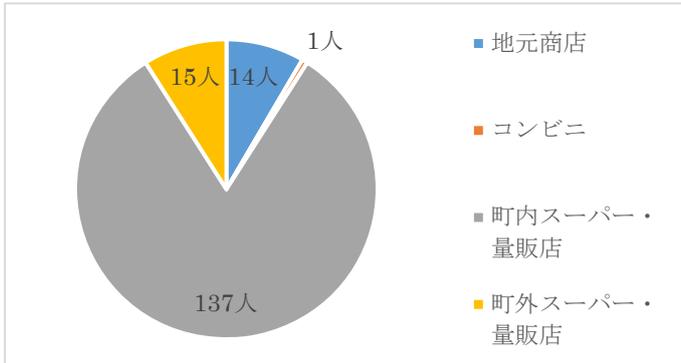
●住所



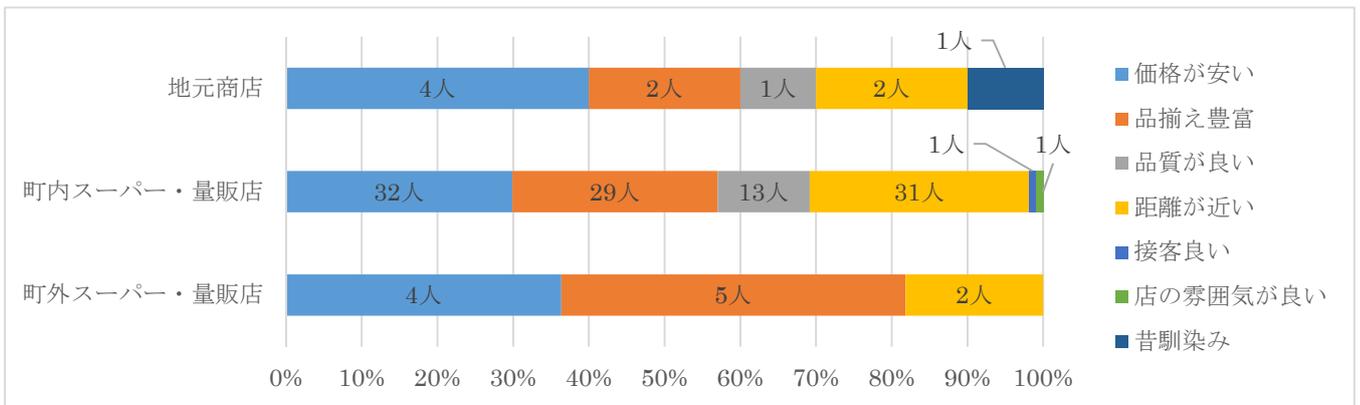
II. 日頃の買い物について ～商品別利用店舗とそのお店を利用する理由～

商品別に利用する店舗とその理由を調査する。なお、択一回答設問であったが、利用する店舗が複数回答している回答者が存在している。利用する理由との集計が一致しないため今回は、無効回答として扱った。

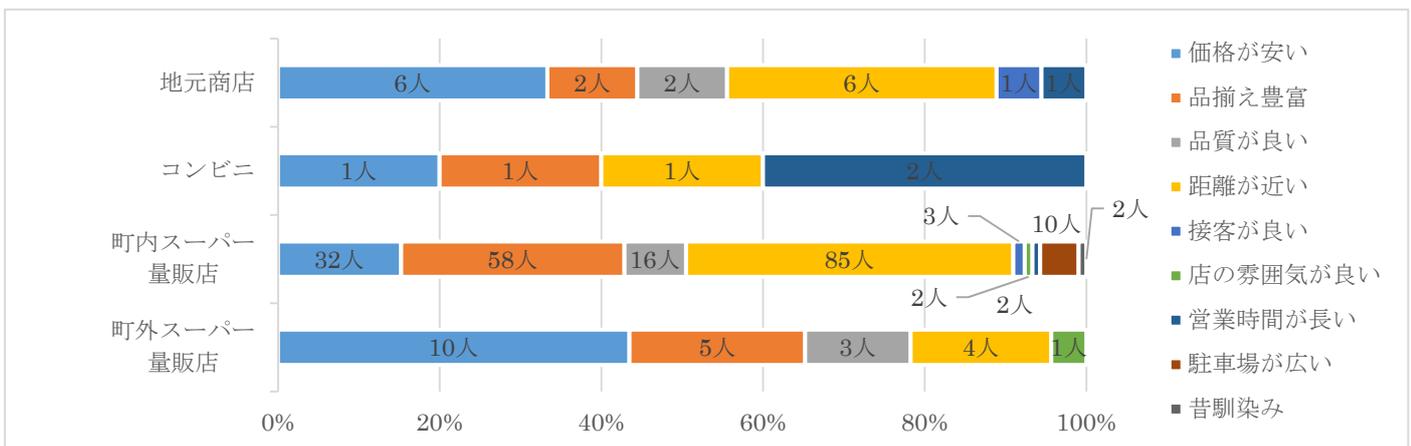
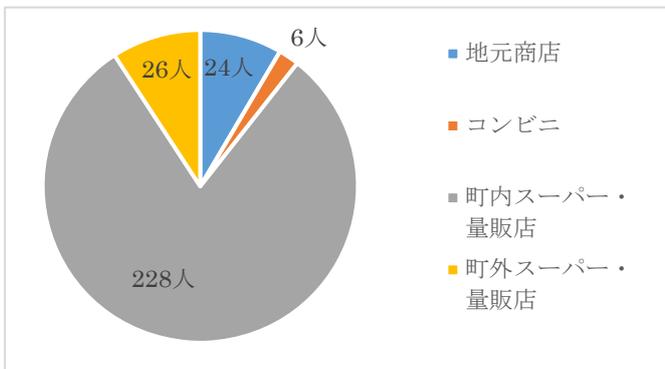
① 生鮮食料品



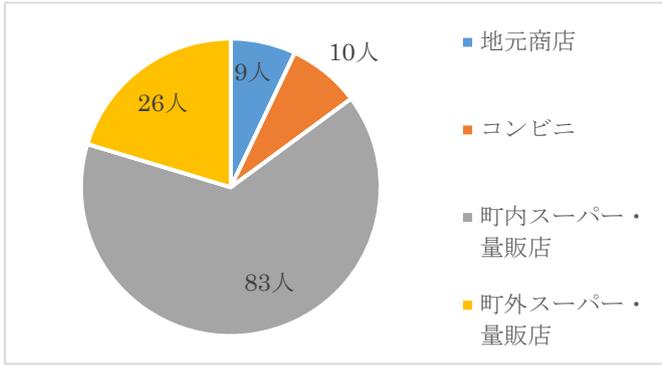
生鮮食料品については、町内のスーパー・量販店で購入する消費者が非常に多い。昨年調査とほとんど傾向は変わっていない。  
また、どの店を選ぶ場合も「価格の安さ」と「品揃え豊富」を理由としている割合が高い。特に昨年調査から「価格」を重視する傾向が強くなっている。



【昨年度実施分の結果】

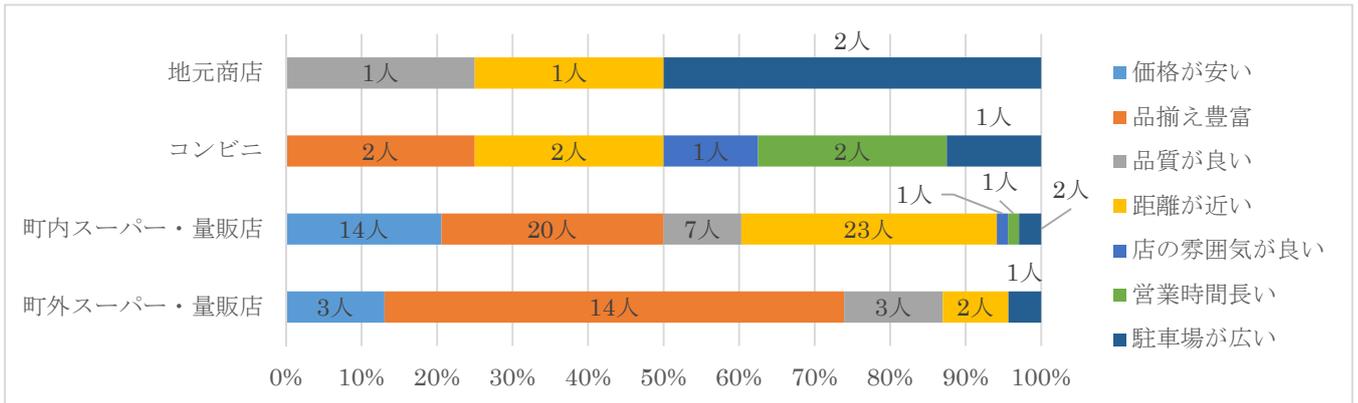


② その他食料品

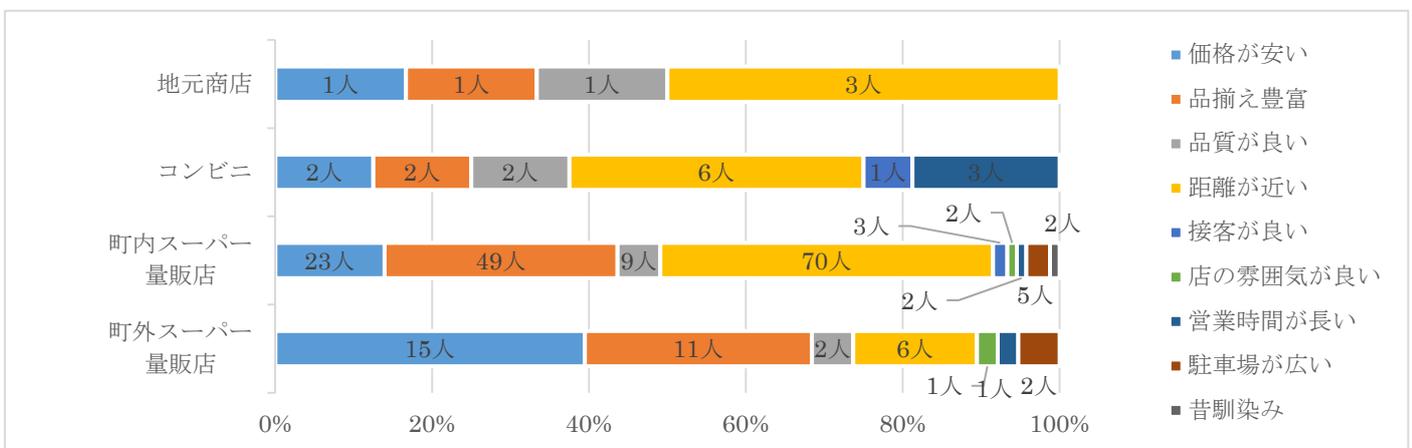
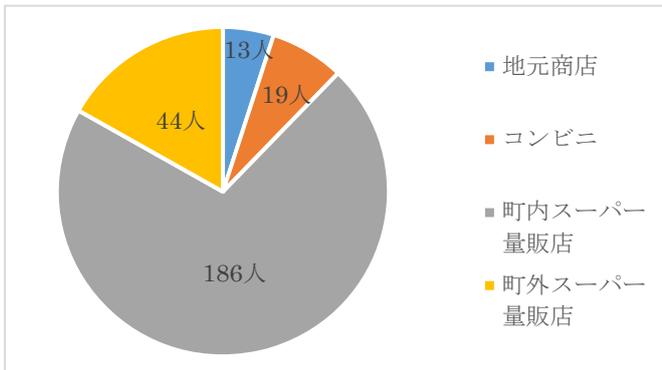


その他食料品については、町内のスーパー・量販店で購入する消費者が非常に多く昨年調査と同様である。

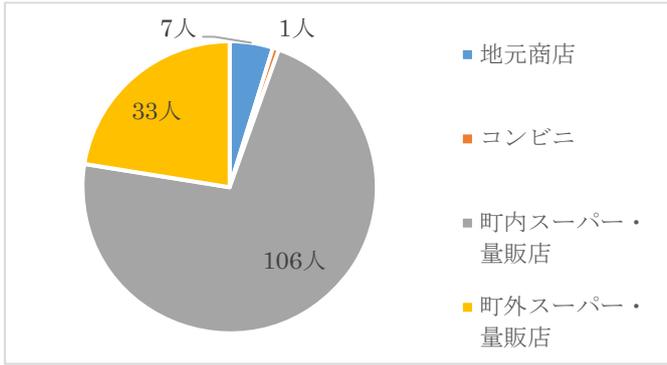
店を選択する理由は、「品揃え」を理由とする消費者が昨年に比べ増え、「距離の近さ」を理由に選ぶ割合が低くなっており地元商店にとっては脅威となっている。



【昨年度実施分の結果】



③ 日用品・雑貨

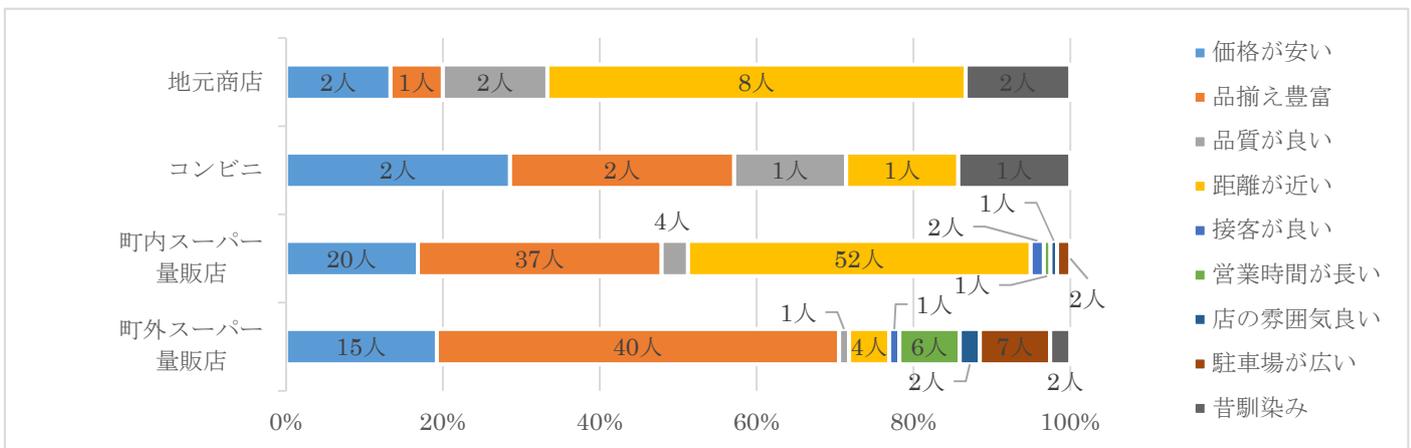
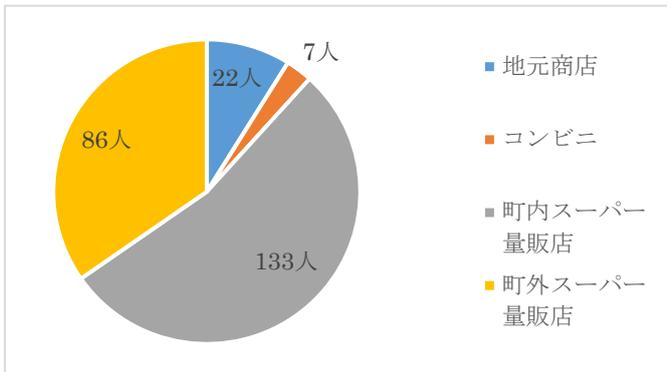


日用品・雑貨については、町内のスーパー・量販店を選択する消費者の割合が昨年から更に高まっている。

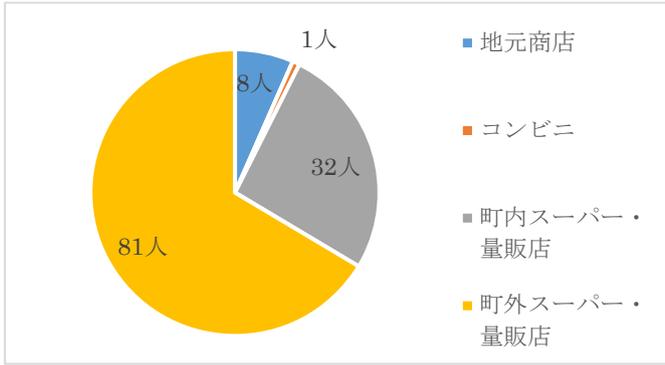
昨年と比較して、消費者は「距離の近さ」を理由に店を選ぶ割合が低くなり、「品揃え」を理由に店を選ぶ割合が高まっている。



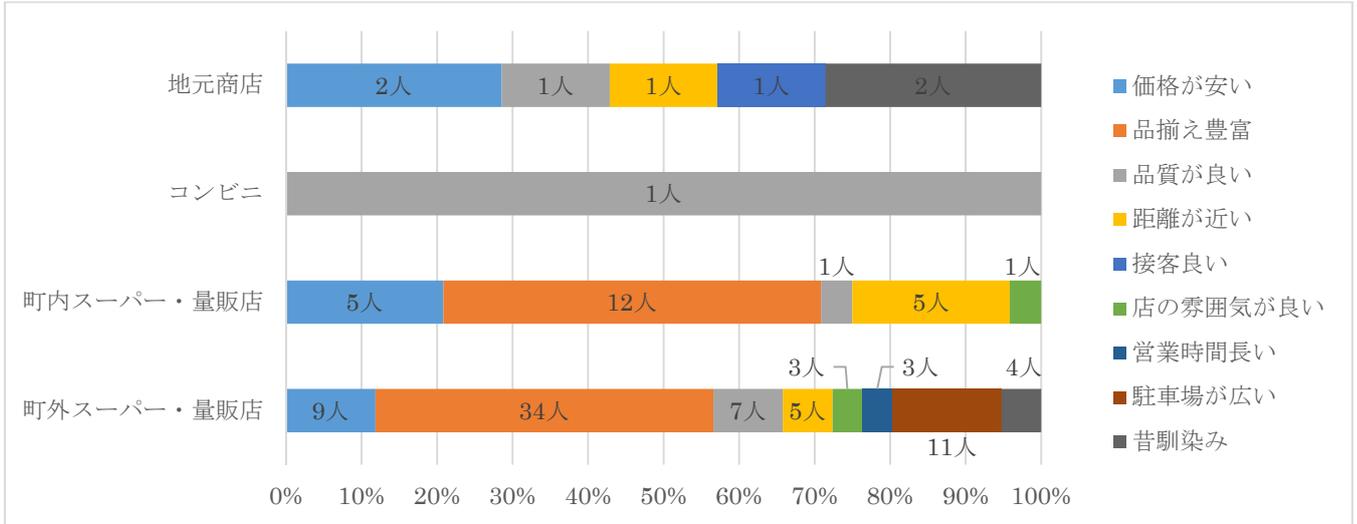
【昨年度実施分の結果】



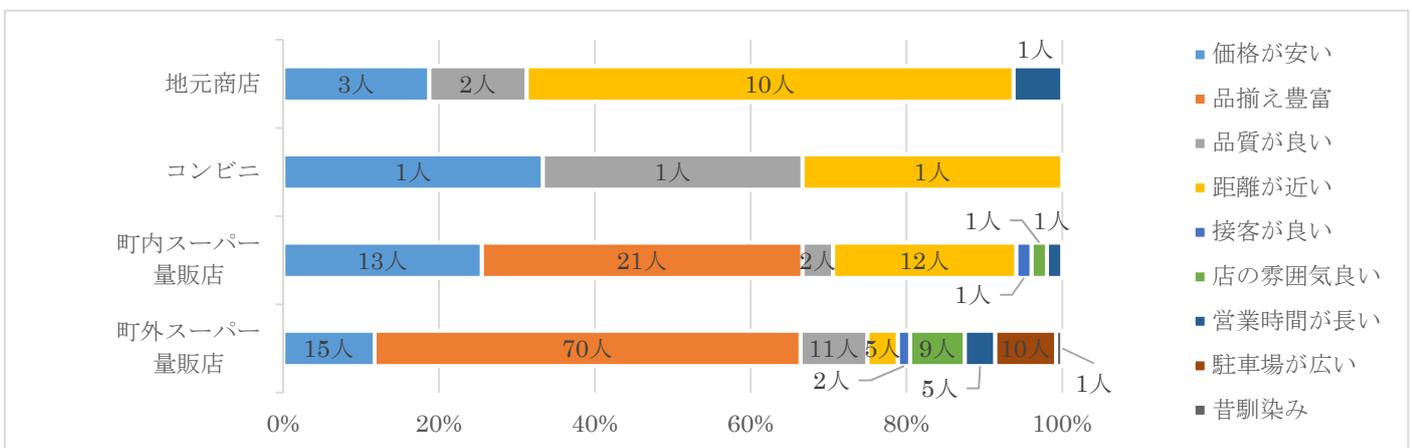
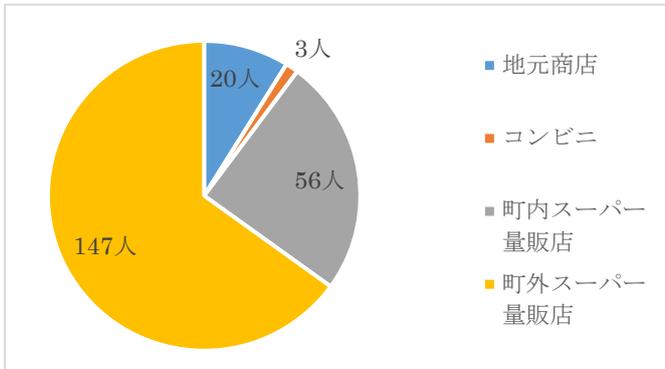
④ 衣料品



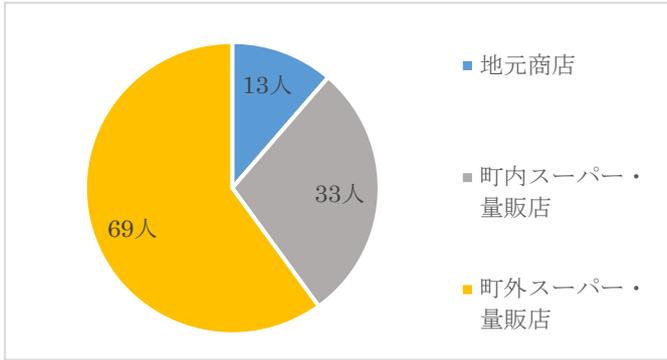
衣料品については、「品揃えの豊富さ」を理由に町外のスーパー・量販店を選択する消費者の割合が最も高くなっている。昨年よりも更にその傾向が強まり、買回り品の特性上「品揃えの豊富さ」が重要な店の選択理由で「価格の安さ」「距離の近さ」がそれほど重要視されていないことがわかる。



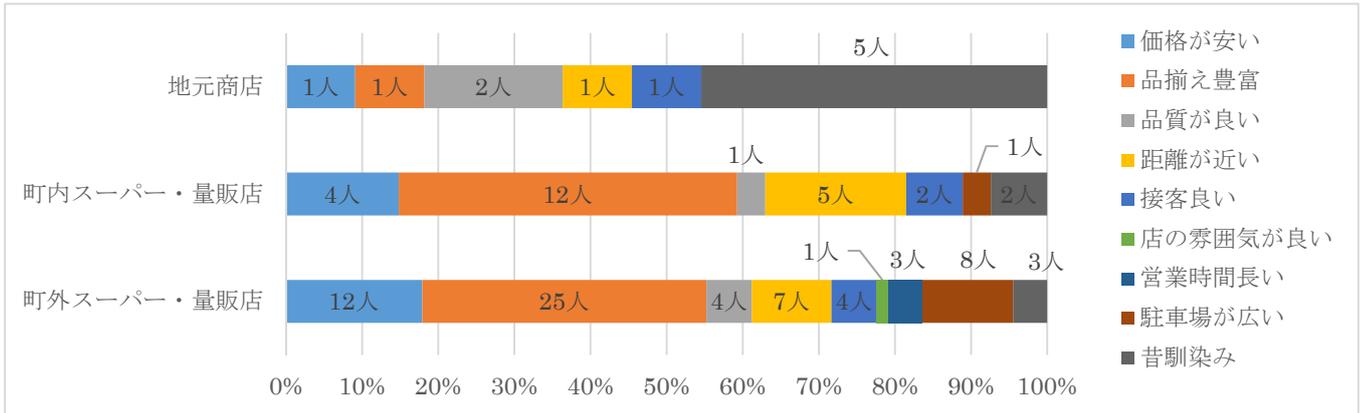
【昨年度実施分の結果】



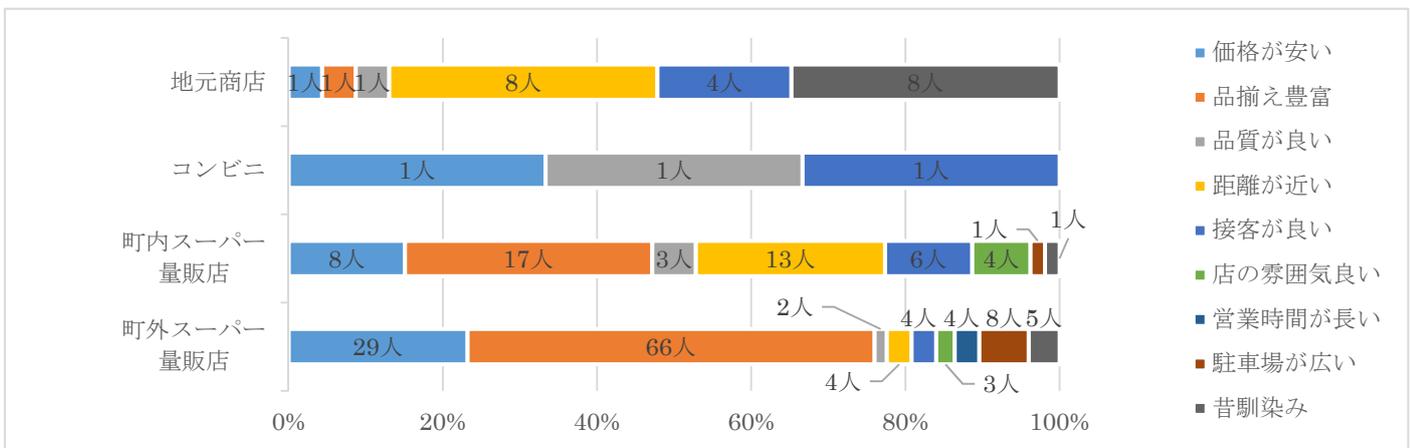
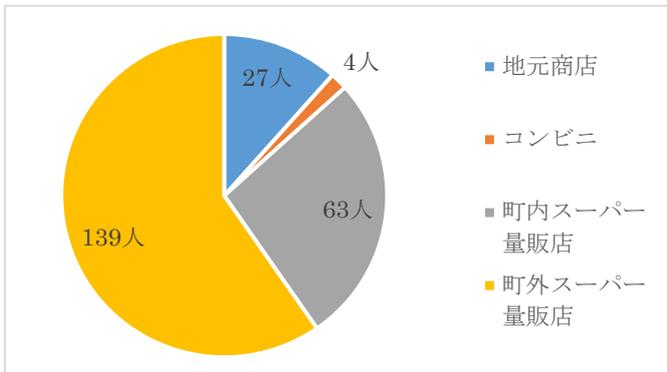
⑤ 家電製品



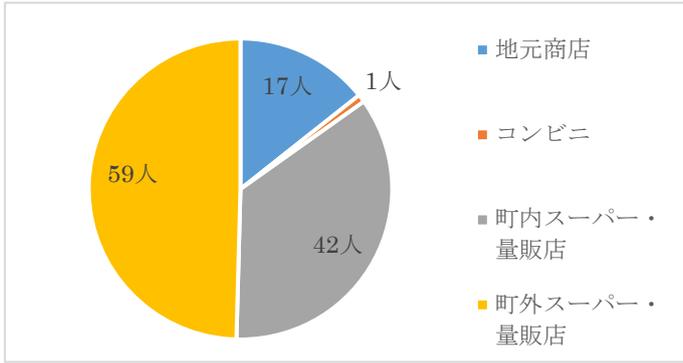
昨年同様、家電製品についても、「品揃えの豊富さ」を理由に町外のスーパー・量販店を選択する消費者が最も多い。  
 今回も地元商店を選択する理由は、「昔馴染み」であることを理由に上げる消費者の割合が高く、他商品との異なる傾向がみられる。



【昨年度実施分の結果】

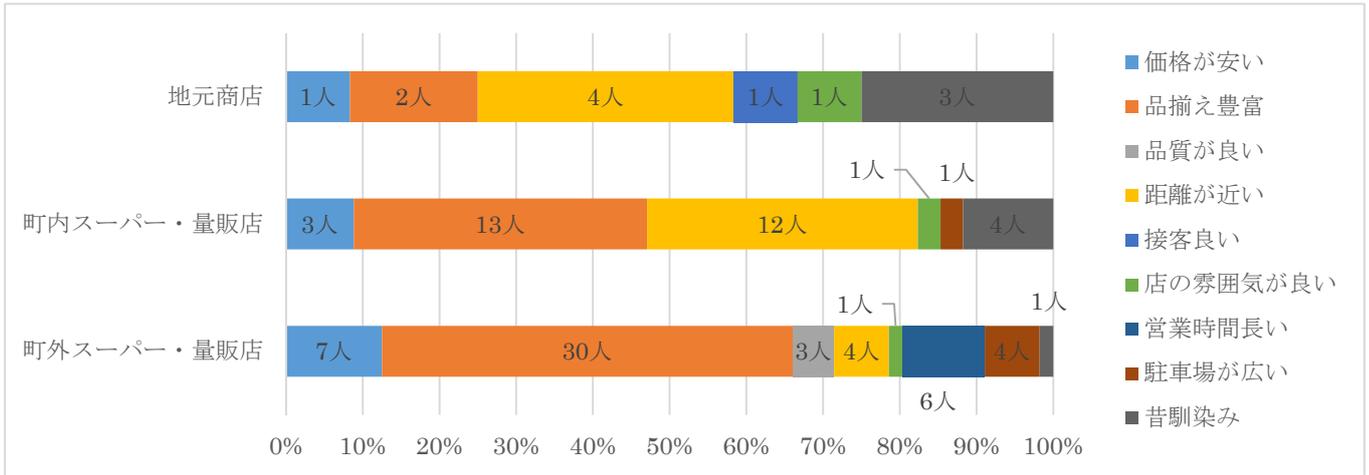


⑥ 書籍・文具

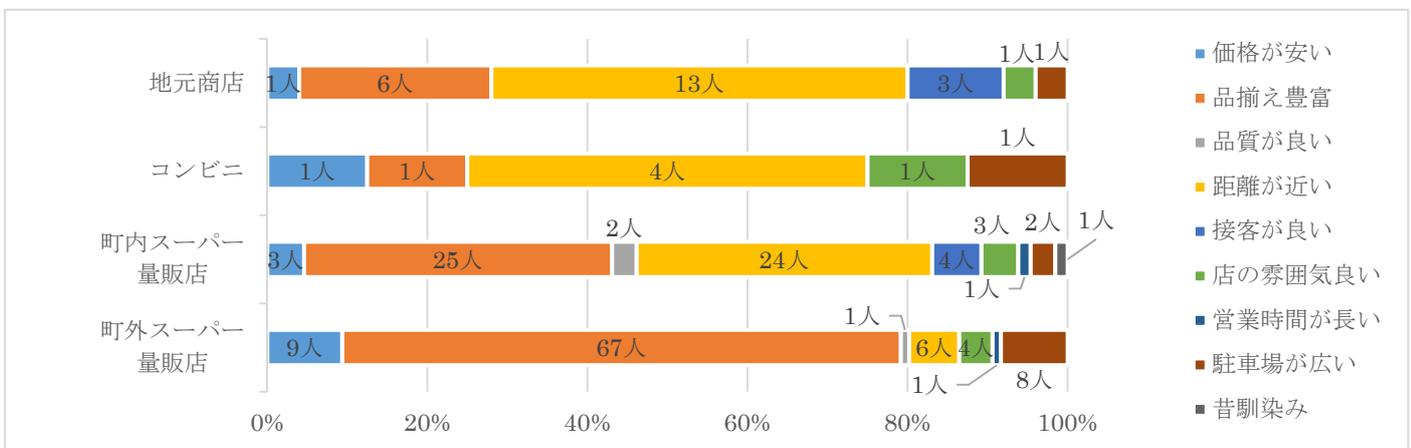
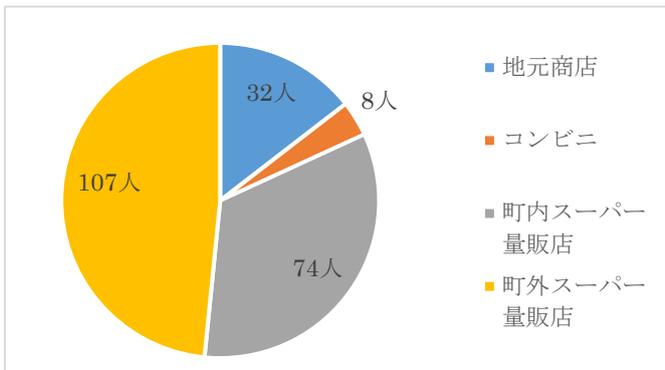


書籍・文具については、コンビニを利用する消費者の割合がやや減少したものの昨年同様利用する店の割合に大きな変化はない。

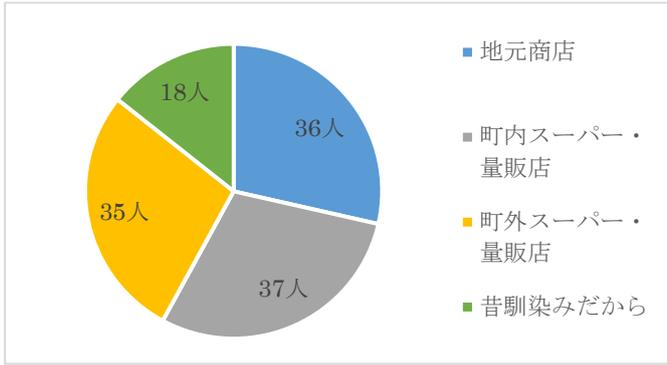
地元商店を選択する消費者が、昨年の調査から「昔馴染み」であることを理由にあげる割合が高まった。同じ店舗で継続して購入している傾向がこの結果から伺える。



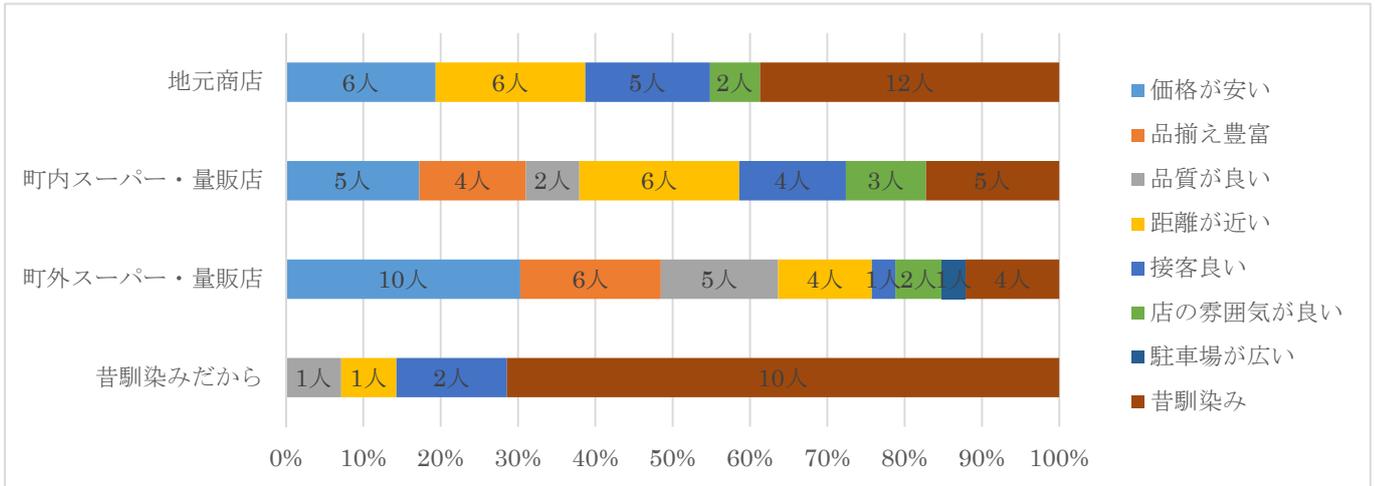
【昨年度実施分の結果】



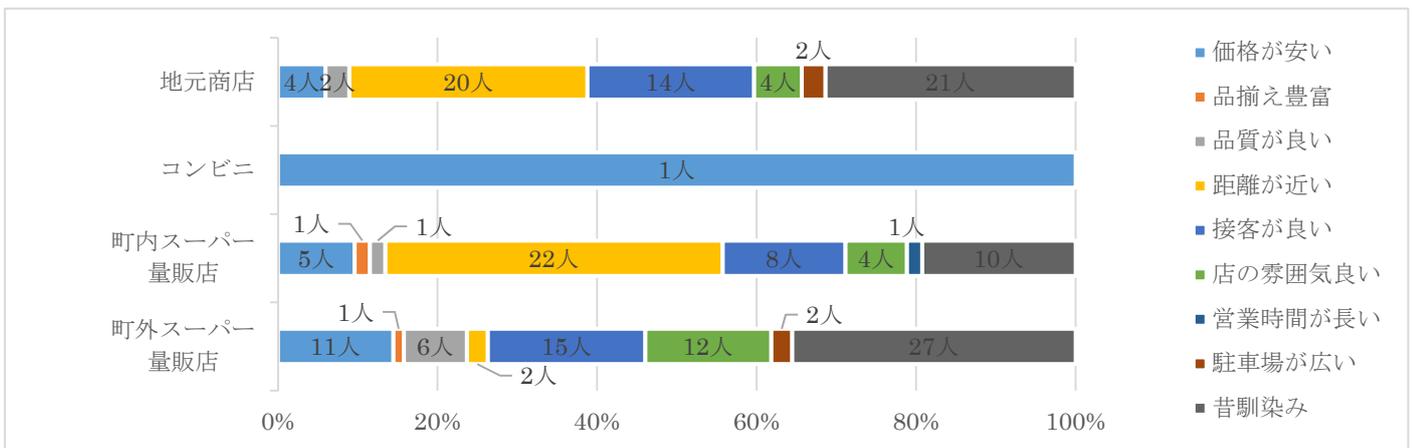
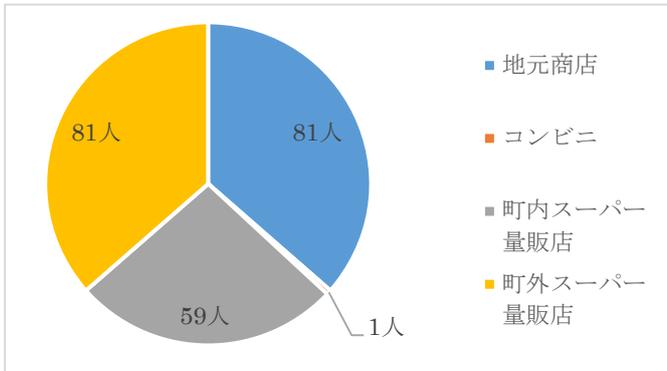
⑦ 美容・理容



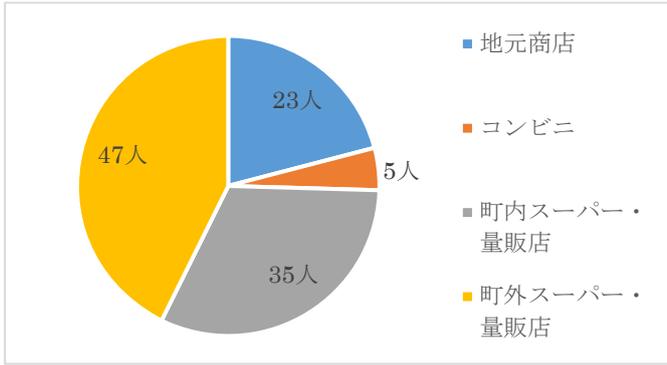
美容・理容については、昨年同様「昔馴染み」を理由に地元商店を選択する傾向が高い。  
 選択する理由も昨年同様、「昔馴染み」が最も高い割合で、多くの消費者が通いなれた店舗を継続して利用していることがうかがえる。  
 なお、今回のアンケートでは、利用店舗の選択肢にも「昔馴染み」が追加されている。



【昨年度実施分の結果】



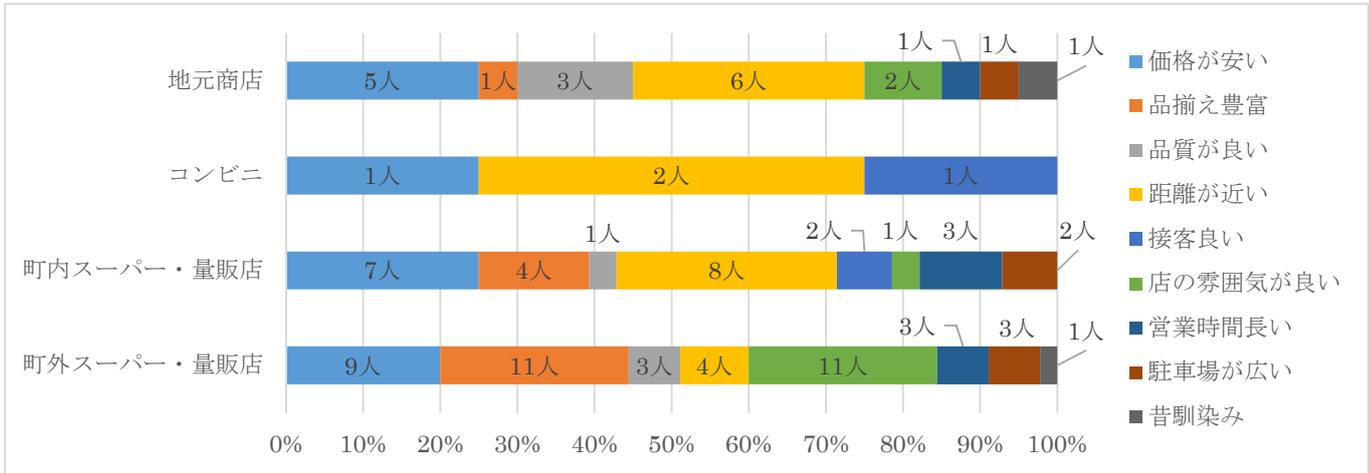
⑧ 飲食



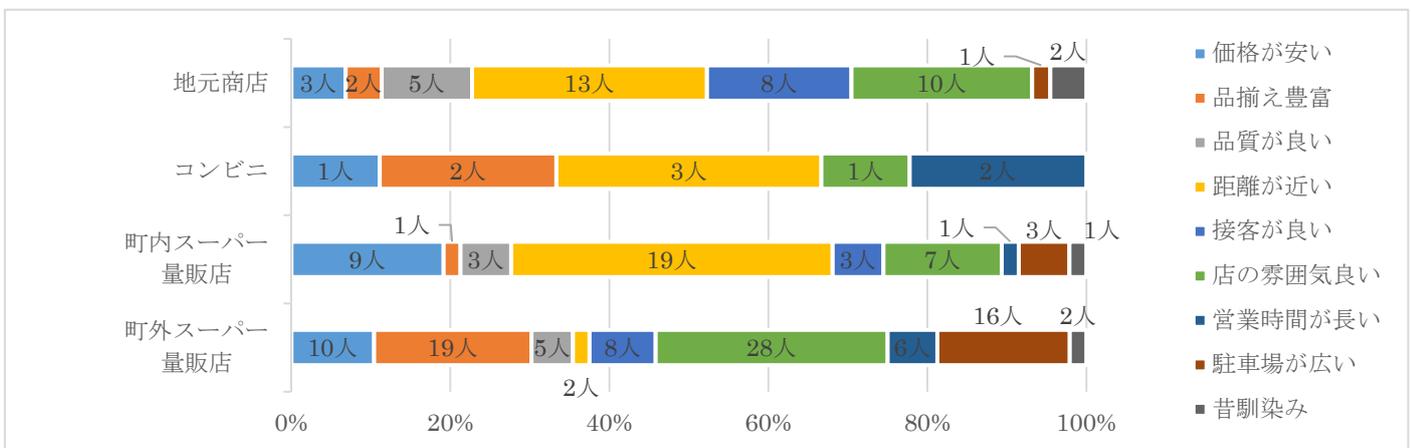
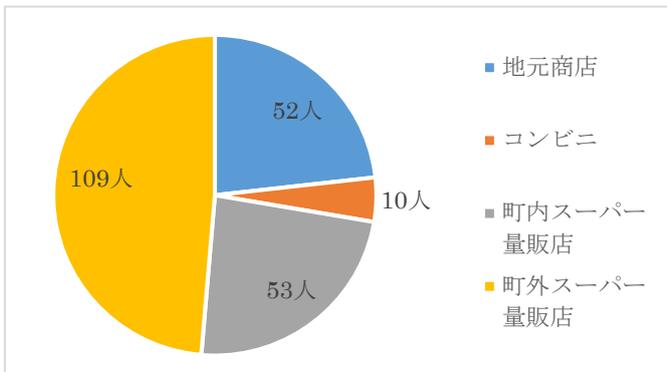
飲食については、昨年と比較して、「町外のスーパー・量販店」を選択する消費者の割合がやや減少している。

町外のスーパー・量販店を選ぶ理由は「店の雰囲気の良い」が変わらず多い理由である。

いずれの店においても「価格の安さ」を重視する消費者の割合が高まっている。



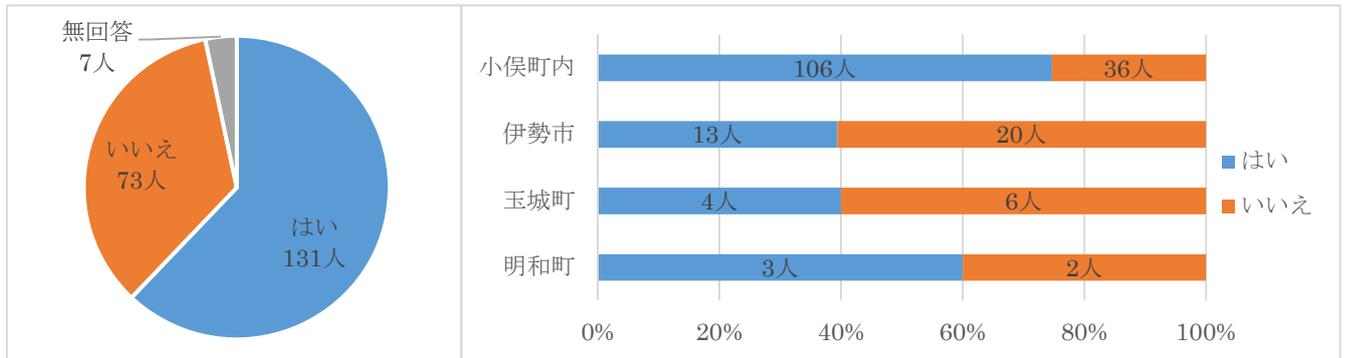
【昨年度実施分の結果】



### Ⅲ. お客様感謝祭及び伊勢市におけるプレミアム商品券について

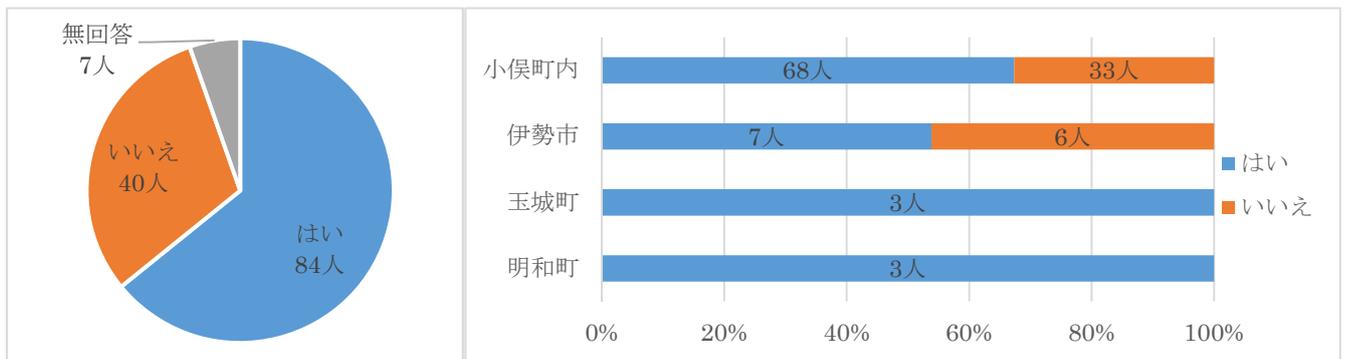
#### ① 『お客様感謝祭』の認知度

小俣町内では、74.6%が「お客様感謝祭」について知っていると回答したが、伊勢市内では 50%を切っている。全体での認知は 62.0%であった。



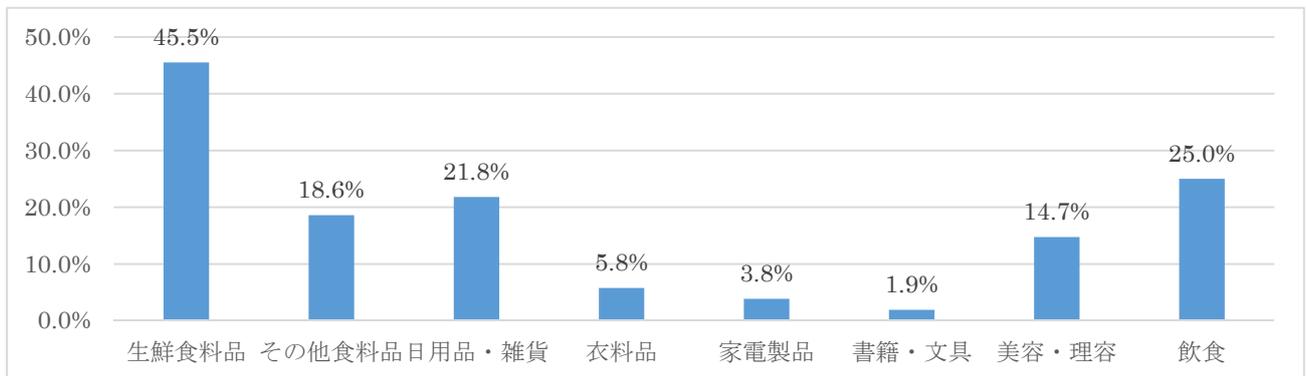
#### ② 『お客様感謝祭』期間中に買物が増えたか（n=131）

期間中の「買物が増えた」と回答した消費者が 64.1%であった。小俣町内以外でも期間中に買物が増えたと回答している消費者が多く、消費喚起につながっていることがわかる。



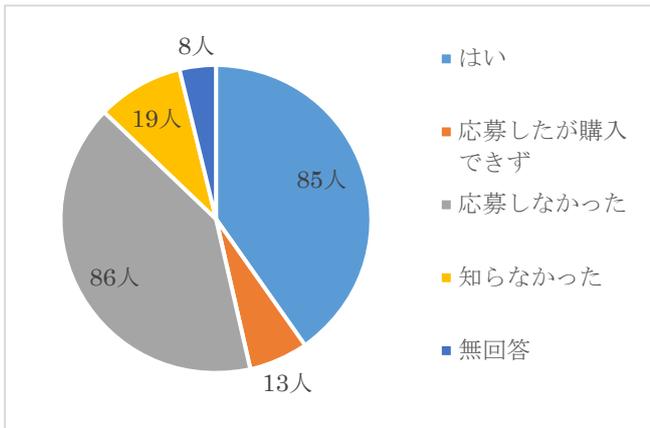
#### ③ 補助券をもらった買物（n=131）

補助券をもらった買物は、半数近くが「生鮮食料品」に利用しており、次いで「飲食」「日用品・雑貨」であった。前述のアンケートから分かるように、町外のスーパー・量販店での購入が多い「衣料品」や「家電製品」、「書籍・文具」については、利用された割合が低い。



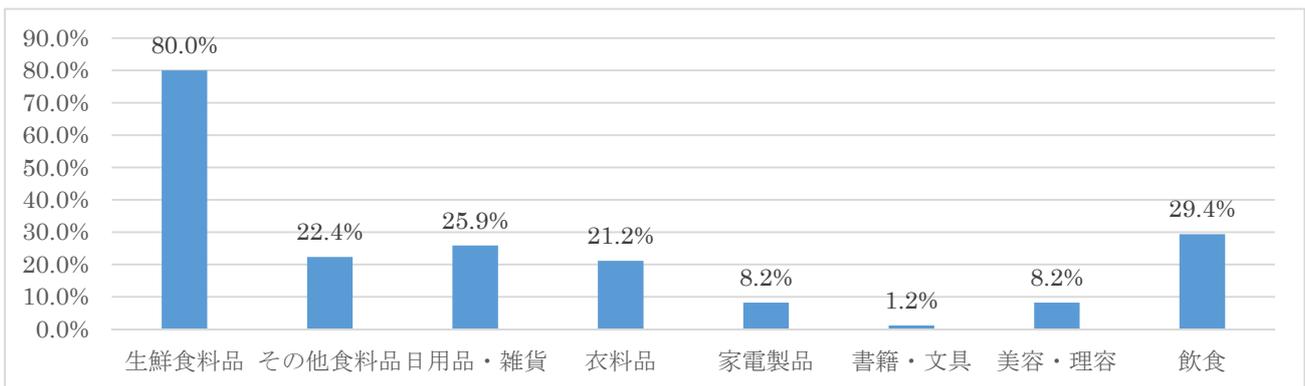
④ 『伊勢市におけるプレミアム商品券』を購入したか

プレミアム商品券について購入したか確認すると「はい」、「応募したが購入できず」を合わせて 46.4%と購入意志があった回答者が半数を下回った。「応募しなかった」という回答者が 86 人(40.8%)あった。



⑤ 『伊勢市におけるプレミアム商品券』を利用した商品 (n=85)

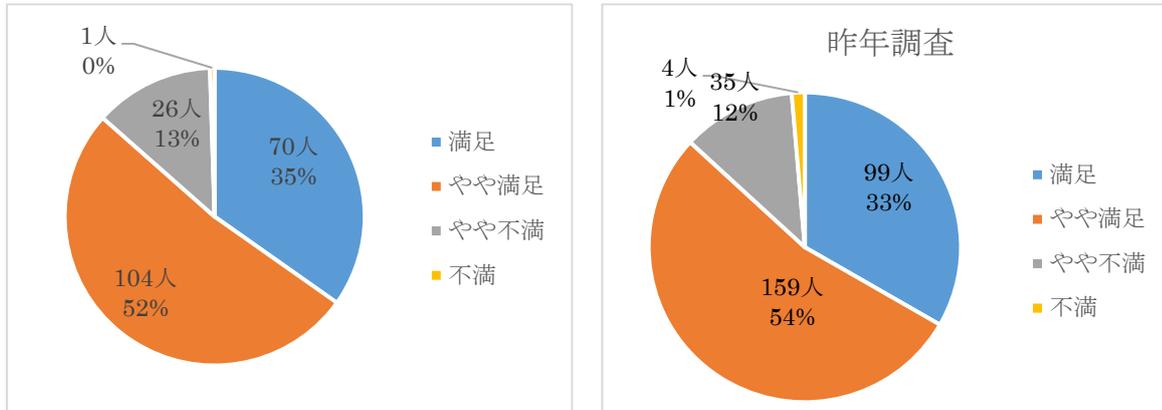
プレミアム商品券を利用した商品は、「生鮮食料品」が 80.0%と他の商品よりも飛び抜けて高い。利用可能店舗数の影響もあるが、町外のスーパー・量販店での購入が多い「衣料品」や「家電製品」、「書籍・文具」については、利用された割合が低い傾向にある。



#### IV. 地元商店に対する満足度調査

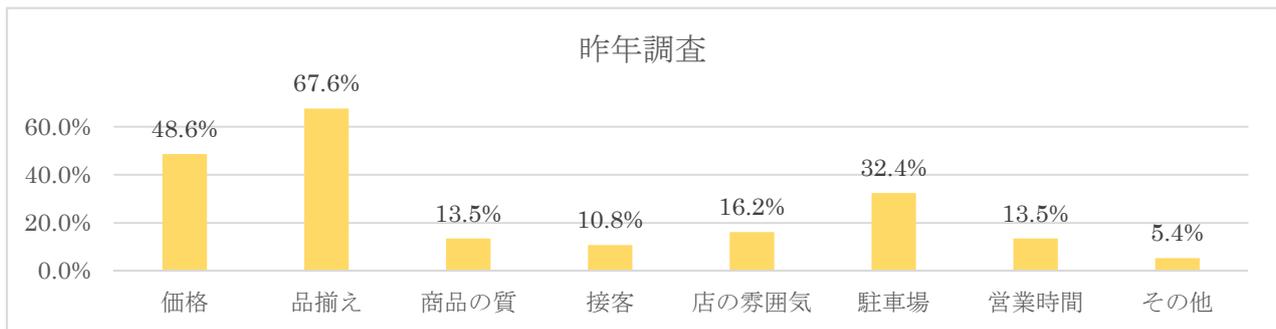
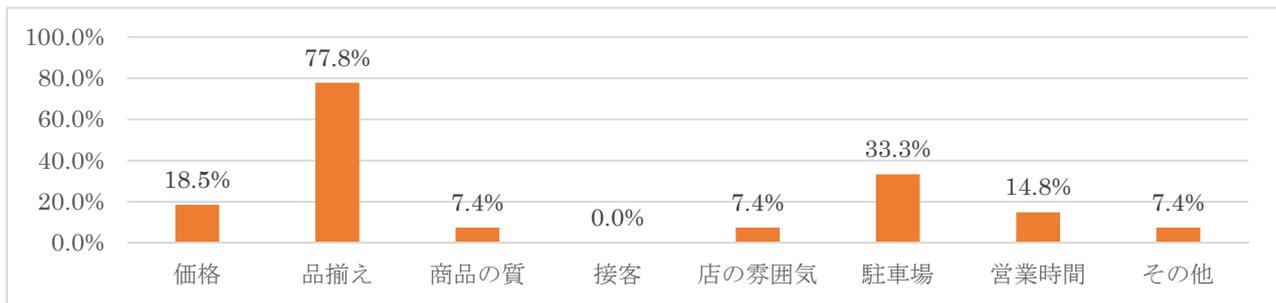
##### ① 地元のお店に対する満足度

昨年とほぼ同程度の結果であり、地元のお店に対する満足度については、「満足」「やや満足」と回答している消費者が 87%あり概ね満足度は高いと言える。地元のお店自体には、それほど否定的な感情を抱いているわけではないことが判り、工夫次第で地元商店の利用を促進できる可能性は十分にあると言える。



##### ② 地元のお店に対し「やや不満」、「不満」と回答した理由（複数回答可）

地元のお店に対して、不満要因を分析すると最も多くあげられたのが「品揃え」であり、77.8%の消費者が不満の理由に挙げている。昨年と比較すると、「価格」を不満理由にあげている消費者の割合が顕著に減少している点は注目すべき点である。



##### ●その他回答

「飲食店がなくなった」・・・1人

「個人商店にはふらりと入りづらい」・・・1人

## ③ 地元商店に期待する役割（複数回答可）

消費者が、地元商店に期待する役割を調査すると、「品揃え・サービスの独自性」が33.5%と高く前述の不満足要因と合わせ「品揃え」を改善することが重要な課題であることがわかる。昨年の調査と比較すると、「品揃え・サービスの独自性」を期待する割合が低下し、それ以外の回答の割合はそれほど変化していない。

